

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473701256	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	平成17年3月1日
法人名	医療法人 徳寿会		
事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ青葉台		
所在地	(227-0033) 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町758番地1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成25年1月23日	評価結果 市町村受理日	平成25年6月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出する機会を多く設けて、社会との繋がりを大切にしている。 個人の思いを大切に、その人らしい生活が送れるように支援している。 職員は、内外の研修へ参加しスキルアップに努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月7日	評価機関 評価決定日	平成25年4月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 当事業所は東急田園都市線青葉台駅からバスで10分、成合バス停より徒歩5分の所にある。南斜面に立地しており、日当たりがよい大きな窓からは隣地の竹林が眺められ、居室側からは民家が見渡せる、明るく、静かな環境にある。同法人の大きな介護老人保健施設に隣接しており、その支援を受けている。 【理念に基づく運営】 法人理念、事業所の理念をもとに、年間目標として「地域との交流」と「職員のスキルアップ」を掲げ、利用者が地域の中で家庭的な生活を送れるような支援を行なっている。地域のお祭りや、日常的な散歩、買い物を通して地域の人達と交流している。地域ケアプラザの行事の一つ、世代間交流の集まりに毎月、利用者と一緒に参加し、様々な年代の方と交流をしている。また、唄や踊り、民謡、マジックなどのボランティアが来所し、利用者を楽しませている。職員は利用者の生活の様子をよく観察し、淋しそうな方には家族の来所を促したり、職員が一人一人と話をする時間を多くするようにして、利用者が気分よく過ごせるように、気配りをしている。また、「利用者が元気な時に外出をしてほしい」との思いから、外出支援にも力を入れている。 【職員の育成】 職員のスキルアップについては、法人と事業所内の研修を充実させ、働きながら資格の取得ができるように支援している。職員は常に優しく、丁寧に声掛けをし、利用者が楽しく暮らせるように心を砕き、支援に結び付けている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ青葉台
ユニット名	1階 ユニット

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度の評価結果や目標の見直しを行い、理念にそった年間目標を立てている。その目標に沿って研修や年間行事などを作成している。	事業所開設時に作られた理念を事務所に掲示し、職員はそれらを記載したスタッフカードを常時所持し、理解している。さらに理念に基づいた年間目標「地域との交流を深める」「全員のスキルアップを図る」を掲げ、実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや清掃にも参加している。また、散歩やお買い物なので顔なじみとなり地域の方々との日常的な交流を続けている。	町内会に加入し、利用者は清掃活動やお祭りに参加している。唄や民謡、踊り、マジックなど地域のボランティアが来所して利用者を楽しませている。地域ケアプラザの世代間交流の集まりに利用者も参加し、地域の一員として交流している。小中学校との交流は先方の事情で実現していないが、運動会への招待がある。管理者が地域ケアプラザで認知症と介護について地域の方を対象に話をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケアプラザにて、認知症についての講義を行なえる機会を得る事ができ、認知症の介護に関する工夫や知恵や情報を地域の方に伝える事が出来た。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民、第三者機関より意見を聞ける場となっている。ホームへ持ち帰り後、職員間で共有して今後活かしている。	運営推進会議は同法人のプラチナホーム鴨志田と合同で、当事業所で開催している。参加者は地区の民生委員、地域ケアプラザの職員、利用者家族である。3カ月ごとに、年4回開催し、事業所の現況報告や、意見交換を行っている。最近では、災害時の避難方法について話し合った。	地域の情報を得るため、また事業所を知ってもらうため、町内会の役員や地域の人に参加してもらうことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者に事業所の様子を伝え、助言を得ている。徘徊ネットワークを利用し協力を得ている。	区とは定例報告や要介護認定更新代行などで連携している。地域包括支援センターには相談をしたりアドバイスを受けたりする関係ができています。地域包括支援センターの依頼で地域の人向けに、管理者が認知症ケアの話をした。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束を行わない事を理解しているが、事業所前の道路は交通量が多く危険な為、利用者の状況に合わせて一時的に、ユニットドアの施錠をしている。	身体拘束排除の方針や拘束をしない介護について研修をしている。職員はなにが「拘束」であるか、勉強し理解している。各ユニットのドアに簡単な施錠はしているが、力を入れると開けられるようになっている。外出を望む利用者には職員と一緒に出かけようとしている。玄関には施錠せず、見守りで対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は具体的事例を用い虐待防止に努め、研修職員は、報告書や会議にて内容報告し他職員と共有している。虐待防止マニュアルは、常に閲覧できるところにある。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は、研修に参加し知識を身につけている。必要に応じ、支援できる体制作りを行なっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用契約書、重要事項説明書の内容を時間をかけて行っている。当ホームへの希望を伺い、対応可能な内容の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を家族の目の付きやすいところに設置し、面会や行事などの来訪時に、本人の様子を伝えている。ケアプランは、本人や家族の意見を聞き反映させている。	家族の面会時には本人の良い面を先に話し、次に困っていることなどを話して意見や要望を引き出している。職員と相談して出来るだけ、希望に添うようにしている。「職員の名前などが分からないので、名簿を置いて欲しい」、「新人職員の紹介をしてもらいたい」等の意見があり、対応を考慮中である。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、面接やミーティングにて、行事、ケア、業務など職員より意見を聞く努力をしている。内容は、定期的で開催する定例会にて法人に伝えている。	全体会議を年2回、フロアごとの会議は年4回行なっている。カンファレンスを含め、フロア会議では今後の利用者のケアについて、意見を集めケアに活かしている。職員からの「休憩時間を見直して欲しい」との要望を受け、食事時間の後、40分の休み時間を取るようにした。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理ノートで、各自目標を設定し、評価している。途中面接を行い目標作成ポイントの方向性や達成水準を確認し向上心を育成している。今後給与に反映する予定である。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップの機会を得られるよう、内部・外部の研修予定表を作成し、研修への参加を支援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現場研修に参加する事で、他グループホーム職員や、内外の研修にて他介護職との交流を行ない、会議などで共有し、サービスの質の向上に向け努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時などに、ホームへの希望とともに、今までの生活暦や生活環境を伺い、今後ホームでの生活を安心して頂けるよう取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前段階で、家族と接する機会がある度に、ホーム入居に際し抱いている疑問や心配等、家族の心の不安が解消できるように努める。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、今後の希望を伺い必要な支援が受けられるように提携機関、協力機関と連絡している。必要に応じ、今まで使用していた機関からの情報も得ている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、一緒に掃除や洗濯などの家事を行い、本人からは、行事などのしきたりや由来を教えて頂く。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と接する際は、本人の日々の様子や体調・要望等を伝え、家族、職員が共に本人が望むより良い方向を目指せるよう話し合う努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>親族・友人・知人の来訪を歓迎し、本人が楽しい時間を過ごせるよう支援している。電話や手紙、贈答品などの取次ぎを行い、美容院や買い物なども希望に応じるよう努力している。</p>	<p>親戚や知人が訪ねて来た時にはお茶を出し、居室で歓談してもらう。家族から、携帯電話を預かっており、時々、利用者が使っている。知人、友人、親戚に手紙を書く支援をしている。馴染みの理髪店やデパートに行く支援を行なっている。家族の家に泊まりに行くことや、墓参りなど利用者が行きたい所、馴染みの場所には家族と一緒にいる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>孤立しない様、皆様で楽しめるレクリエーションを行ったり、時々席替えをしたりして新しい関係を築ける様に支援している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院や他施設へ移られた後も、面会に行ったり、家族からの相談に応じている。契約終了後も、以前と変わらない相談や支援に努めている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日頃の生活の中で、利用者の意向や希望を聞き、情報は申し送りや記録で共有している。把握が困難な方は表情や様子から汲み取り、場合によっては職員を変え対応している。</p>	<p>日常の会話の中で、食べたいもの、行きたい所などを話題にして、それぞれの思い、意向を聴きとっている。年間行事などを決める際には個々に希望を聞いている。表現を発出しづらい人については態度や仕草から判断している。職員が把握したことは職員ノートに書き、全職員で共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや生活歴を共有し、本人の意向も大切にしながら、入居後もこれまでの生活を継続できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行状態を始めとする日々の様子や体調、表情の変化などを記録に残し申し送る事で全職員が現状を把握するよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアー会で、個人のケアについて話し合い、家族、本人の意向や医師の所見も取り入れて介護計画を作成する。通常は3ヶ月毎に、急変時はその都度見直しをしている。	入居後、2週間の状態を見て介護計画を作成する。3ヶ月後、会議やカンファレンスを行ない、見直しをする。状態の変化時や要介護度の変更時にも見直している。介護計画を実施した時にはその内容をケア記録に書くようにしている。それをもとにチェック表を作成し、見直しに役立てている。介護計画は概ね3ヶ月で、必要に応じて医師、看護師の意見を取り入れて更新している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を振り返り、計画を作成している。また、介護計画を毎日のケアに活かしていくことが出来るように介護記録の横に入れ職員間で共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医師、看護師、薬剤師、在宅医療マッサージ、他施設相談員や福祉用具店などの協力を得て、そのとき必要なものを提供する努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の清掃活動や、地域の世代間交流の場への参加している。また、ボランティアを受け入れ、楽しい毎日を送れるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医よりの往診を受けているが、家族付き添いでの他受診も可能である。歯科は、協力医受診と往診医を本人、家族の希望で選択している。	利用者全員が2週間に一回、ユニット別に協力医の往診を受けている。毎週、医師が来所しており、利用者の状態に応じて受診している。法人の看護師が毎週、来所し健康管理をしている。歯科医は協力医または24時間対応の往診医を選択してもらっている。その他の専門医の受診には家族が対応している。医療情報については「健康管理ノート」で共有している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師が、毎週健康管理を行っている。心身の状態を報告し適切なアドバイスを受け、毎日のケアに反映している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーで、情報を伝え安心して生活できるように支援している。また、面会、ムンテラ時に同席し退院後の受け入れ態勢を整えている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針を定め同意書を得ている。入居前に、医療行為が継続して必要な場合は、入院となること、また、希望があり、協力医が認めた場合は見取りを行なう。	契約時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を家族や利用者に説明し、同意を得ている。ただし、実際に看取りをする場合には、以前の例に倣い、利用者それぞれに応じた態勢を整えること、必要に応じてスタッフの研修を行なうことにしている。	重度化対応の必要性が増しています。その時になって職員が慌てたり、戸惑ったりしないように、研修を行うなど準備しておくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員のほとんどが救命救急講習を受講し、実践に対応できるようにしている。また、急変時対応マニュアルがありそれに沿い対応している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理マニュアルを整備し、年2回避難訓練を行い災害時のシュミレーションで、避難経路等を確認している。併設している同法人施設よりの協力を得ることとなっている。	自主避難訓練を年2回、夜間時を想定して訓練を行なっている。緊急対応マニュアルも用意されている。自動火災報知装置が各階に、また、消防署への自動通報装置もある。隣の介護老人保健施設が非常時に協力してくれる体制がある。今のところ地域との連携はない。水、食料3日分くらいを備蓄している。隣接施設には、十分な備蓄がある。	近隣との連携も必要と思われます。まずは見守り程度の手助けが得られるよう、協力を働きかけることが望まれます。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、本人の人格を尊重しプライドを傷つけないよう意識し言葉かけを行っている。個人記録には氏名の明記などしないよう職員全員が周知している。	理念に基づき、その人らしい生活が出来るよう、利用者のプライバシーや尊厳を大切にしている。職員は接遇研修も受け、親しさの中にも節度を持って対応をしている。個人情報に係わる書類は、施錠できる事務室に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の嗜好や意思を尊重できる場を作るように心がけている。また、意思決定が困難なときは、思いを汲み取る努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合によるものではなく、常に本人の希望、ペースが優先されるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい着こなしが出来るよう支援している。着衣の乱れなど無いよう、おしゃれで清潔でいられるよう常に心がけている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶入れ、盛り付けなどの準備や、後片付けを職員と一緒にこなしている。出来る事を出来るときに、楽しみながら行なえるよう支援している。	主食と味噌汁などの汁ものは事業所で職員が作り、副食は隣接している同法人の介護老人保健施設で調理してもらい、温めてから提供している。利用者は配膳、下膳やお茶入れなど、できる範囲で手伝っている。職員も利用者と同じテーブルで同じ食事をとりながら、話をしたり、介助をしている。食べやすいように細かにしたり、必要に応じて刻み食などを採り入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が工夫した献立を提供している。摂取量を記録し、本人に合わせ食べやすいように工夫したものを提供している。季節や体調に合わせた水分補給に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が自ら行なう事を基本に不足部位を介助している。個別に、奥歯、舌苔などの介助を行い、仕上げのブラッシングを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努める。言動や表情に気をつけながら自立への支援を行なっている。	排泄チェック表により各利用者のパターンを把握しており、声掛け誘導をし、トイレでの排泄を支援している。自立の方は1名、リハビリパンツを着用している人もいるが、できるだけ布パンツを着用するように心がけている。こまめなトイレ誘導により、リハビリパンツから布パンツになった方もいる。状況により、男性用、車椅子用、普通のトイレを選ぶように配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や乳製品の摂取にて便秘の予防を行っている。個々の排便状態やパターンを確認し、水分摂取量に注意している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人より、入浴の希望があった時は、すぐに対応できるような体制を整えている。また、ゆず湯や菖蒲湯など、季節にあわせた入浴も行なっている。	入浴は少なくとも週2回としており、利用者の希望によりいつでも入れるようにしている。入浴表を確認したところ週3、4回の方が多かった。個浴で脱衣場は床暖房の設備がある。入りたがらない人には気長に声掛けをしたり、他人の様子を見せたり工夫して勧めている。シャワー浴、足湯も行なう。季節のショウブ湯、ユズ湯、また、入浴剤を使用して、気持ちよく入ってもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態や、日中の活動量、外出などを把握し、休憩、午睡などの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>健康管理ノートや薬局よりの情報にて、職員は薬の目的や副作用を確認している。また、薬変更時は、心身の状態を観察し、記録に残し変化の確認に努めている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの好みや得意な事を活かし、また苦手な事も把握し、その時の本人の希望にあわせて一日を楽しく、生き生きと過ごせるよう支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望時、その都度職員が付き添い外出をしたり、日常的に天気、体調に合わせて、散歩や買物に出掛けている。そのときに応じ、おやつ外食やカラオケなど行い気分転換している。</p>	<p>天候が許す限り、周辺の散歩や買物に出かけている。職員が個々に付添い理髪店やパン屋に行く。帰りにお茶を飲むこともあり、利用者は外出を楽しみにしている。隣の介護老人保健施設の車を利用して、花見や紅葉見物、町田の薬師池公園、近くのララポートに出かけている。広告を見て買物にも行く。管理者や職員は利用者が元気な時に外出を沢山してほしいとの思いで、支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の了解を得て、本人が希望する場合は、買物やお賽銭など納得できる使い方を支援している。また、時に応じ、買物の支払いを、本人が行なえるよう援助している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>個人情報に配慮して電話を取り次いだり、手紙や季節の挨拶状など、大切な人との繋がりが途切れないよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、協力して作った壁飾りを季節ごとに展示し、テーブルに花を飾り、居心地の良い、空間を演出している。	建物は南斜面にあり、西南側に面しているリビングの大きな窓から外の竹林や柿の木が眺められ、開放的で明るい。床暖房が設置され、温度、湿度の管理や清掃が行き届き、清潔感がある。玄関にはひな人形を飾り季節感を出している。リビングの壁には利用者が書いた習字や花を飾っている。テーブルは利用者が個別にゆっくり出来るよう配置している。大きなソファやテレビなどが置いてあり、ゆったり過ごせるようにしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の活動にあわせ、席の配置を工夫している。パズル、縫い物やカルタなど一人や、気のあった方とでも過ごせる環境を作っている。リビングに個人の椅子を置き居心地のいい居場所作りをしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具で、本人の使いやすいように配置されている。家族の写真やぬいぐるみなどを飾り居心地の良い空間を作っている。	南に面した居室は眺めがよい。エアコン、クローゼット、カーテン、照明が常備されている。ベッドは利用者の状況による持ち込みか、事業所が用意するか、選択できる。利用者の好みの鏡台や大きな鏡、たんす、椅子、ぬいぐるみ、家族の写真も置いて、過ごしやすい、自分の部屋にしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に合わせた生活が送れるよう、共有部分に手すりや椅子を設置している。トイレなどを明記して安心して生活できるような環境を作っている。		

事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ青葉台
ユニット名	2階 ユニット

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度の評価結果や目標の見直しを行い、理念にそった年間目標を立てている。その目標に沿って研修や年間行事などを作成している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや清掃にも参加している。また、散歩やお買い物なので顔なじみとなり地域の方々と日常的な交流を続けている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケアプラザにて、認知症についての講義を行なえる機会を得る事ができ、認知症の介護に関する工夫や知恵や情報を地域の方に伝える事が出来た。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民、第三者機関より意見を聞ける場となっている。ホームへ持ち帰り後、職員間で共有して今後活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者に事業所の様子を伝え、助言を得ている。徘徊ネットワークを利用し協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員が身体拘束を行わない事を理解しているが、事業所前の道路は交通量が多く危険な為、利用者の状況に合わせて一時的に、ユニットドアの施錠をしている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者は具体的事例を用い虐待防止に努め、研修職員は、報告書や会議にて内容報告し他職員と共有している。虐待防止マニュアルは、常に閲覧できるところにある。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者及び職員は、研修に参加し知識を身につけている。必要に応じ、支援できる体制作りを行なっている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は利用契約書、重要事項説明書の内容を時間をかけて行っている。当ホームへの希望を伺い、対応可能な内容の確認を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を家族の目の付きやすいところに設置し、面会や行事などの来訪時に、本人の様子を伝えている。ケアプランは、本人や家族の意見を聞き反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日常的に、行事、ケア、業務など職員より意見を聞く努力をしている。内容は、定期的開催する定例会にて法人に伝えている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理ノートで、各自目標を設定し、評価している。途中面接を行い目標作成ポイントの方向性や達成水準を確認し向上心を育成している。今後給与に反映する予定である。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップの機会を得られるよう、内部・外部の研修予定表を作成し、研修への参加を支援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現場研修に参加する事で、他グループホーム職員や、内外の研修にて他介護職との交流を行ない、会議などで共有し、サービスの質の向上に向け努力している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時などに、ホームへの希望とともに、今までの生活歴や生活環境を伺い、今後ホームでの生活を安心して頂けるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前段階で、家族と接する機会がある度に、ホーム入居に際し抱いている疑問や心配等、家族の心の不安が解消できるように努める。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、今後の希望を伺い必要な支援が受けられるように提携機関、協力機関と連絡している。必要に応じ、今まで使用していた機関からの情報も得ている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活活動の工夫や、行事関連の催しでの風習やしきたりなど、由来なども交え教えて頂いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と接する際は、本人の日々の様子や体調・要望等を伝え、家族、職員が共に本人が望むより良い方向を目指せるよう話し合う努力をしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	親族・友人・知人の来訪を歓迎し、本人が楽しい時間を過ごせるよう支援している。電話や手紙、贈答品などの取次ぎを行い、美容院や買い物なども希望に応じるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、皆様で楽しめるレクリエーションを行ったり、時々席替えをしたりして新しい関係を築ける様に支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ移られた後も、面会に行ったり、家族からの相談に応じている。契約終了後も、以前と変わらない相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活の中で、利用者の意向や希望を聞き、情報は申し送りや記録で共有している。具体的に伝えられない方は、毎日の様子から汲み取り、場合によっては職員を変え対応している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや生活歴を共有し、本人の意向も大切にしながら、入居後もこれまでの生活を継続できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行状態を始めとする日々の様子や体調、表情の変化などを記録に残し申し送る事で全職員が現状を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>フロアー会で、個人のケアについて話し合い、家族、本人の意向や医師の所見も取り入れて介護計画を作成する。通常は3ヶ月毎に、急変時はその都度見直しをしている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録を振り返り、計画を作成している。また、介護計画を毎日のケアに活かしていくことが出来るように介護記録の横に入れ職員間で共有している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>状況に応じて医師、看護師、薬剤師、他施設相談員や福祉用具店などの協力を得て、そのとき必要なものを提供する努力をしている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>町内会の清掃活動や、地域の世代間交流の場への参加している。また、ボランティアを受け入れ、楽しい毎日を送れるよう支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医よりの往診を受けているが、家族付き添いでの他受診も可能である。歯科は、協力医受診と往診医を本人、家族の希望で選択している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人の看護師が、毎週健康管理を行っている。心身の状態を報告し適切なアドバイスを受け、毎日のケアに反映している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>介護サマリーで、情報を伝え安心して生活できるように支援している。また、面会、ムンテラ時に同席し退院後の受け入れ態勢を整えている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応に係る指針を定め同意書を得ている。入居前に、医療行為が継続して必要な場合は、入院となること、希望があり、協力医が認めた場合は見取りを行なうことを伝えている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員のほとんどが救命救急講習を受講し、実践に対応できるようにしている。また、急変時対応マニュアルがありそれに沿い対応している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災管理マニュアルを整備し、年2回避難訓練を行い災害時のシュミレーションで、避難経路等を確認している。併設している同法人施設よりの協力を得ることとなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、本人の人格を尊重しプライドを傷つけないよう意識し言葉かけを行っている。個人記録には氏名の明記などしないよう職員全員が周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の嗜好や意思決定ができる場を作り対応している。また、意思決定が困難なときは、思いを汲み取る努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	楽しく、無理なく過ごせるよう、本人のペースに合わせた生活を心がけ、人格や個性を理解し、寄り添っていけるよう努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院や、好みの化粧品など、本人希望の身だしなみが出来るよう支援し、衣類なども一緒に買物に出かけ、好みのものが購入できるよう援助している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶入れ、盛り付けなどの準備や、後片付けを職員と一緒にこなしている。出来る事を出来るときに、楽しみながら行なえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が工夫した献立を提供している。一人ひとりの適正体重を理解し、咀嚼、嚥下状態を考慮した摂取を考え対応し、季節や体調に合わせた水分補給に努めている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>歯科医師の助言により、個別に口腔ケア対応し、本人が自ら行なう事を基本に不足部位を介助している。また、全職員同一のケアが出来るように日々確認している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄の間隔を考え、出来るだけトイレにて排泄できるようタイミングを図り、トイレでの時間を十分にとり対応している。また、本人の行動サインを見逃さないよう配慮している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個々の排便状態やパターンを確認し、水分や内服薬の調整を行っている。また、散歩や体操を行い便秘の改善に努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>無理強いせず、個々の希望やタイミングに合わせて入浴している。ゆず湯など季節に合わせた入浴を楽しめる環境作りをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活を把握し、記録に残して職員間で共有している。個々の体調にあわせ午睡や運動などで、夜間快適な睡眠時間が確保できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理ノートや薬局よりの情報にて、職員は薬の目的や副作用を確認、理解している。薬変更時、心身の状態を観察し記録に残し、変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや得意な事を活かし、また苦手な事も把握し、その時の本人の希望にあわせて一日を楽しく、生き生きと過ごせるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	広告などの情報や、本人の希望に応じた外出、買物に出掛け、気分転換を行なっている。家族の協力のもと、お墓まいり、教会や外食など本人が望む生活を行なっている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、支払いの機会を設け、買物や移動販売など、本人が支払える状況を作っている。また、家族の了解を得て、本人が希望する場合はお金を管理している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人情報に配慮し、希望の限り取り次いでおり、また、本人の携帯は、常に使用できるようにしている。電話や年賀状など大切な人との繋がりは継続できるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、協力して作った壁飾りを季節ごとに展示し、テーブルに敷地内で育てた草花を飾り、季節を感じられる空間を演出している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の活動にあわせ、席の配置を工夫している。新聞、塗り絵やパズルなど一人や、気のあった方とでも過ごせる環境を作っている。リビングに個人の椅子を置き居心地のいい居場所作りをしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具で、本人の使いやすいように配置されている。家族の写真やぬいぐるみなどを飾り居心地の良い空間を作っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に合わせた生活が送れるよう、共有部分に手すりや椅子を設置している。トイレなどを明記して安心して生活できるような環境を作っている。		

